

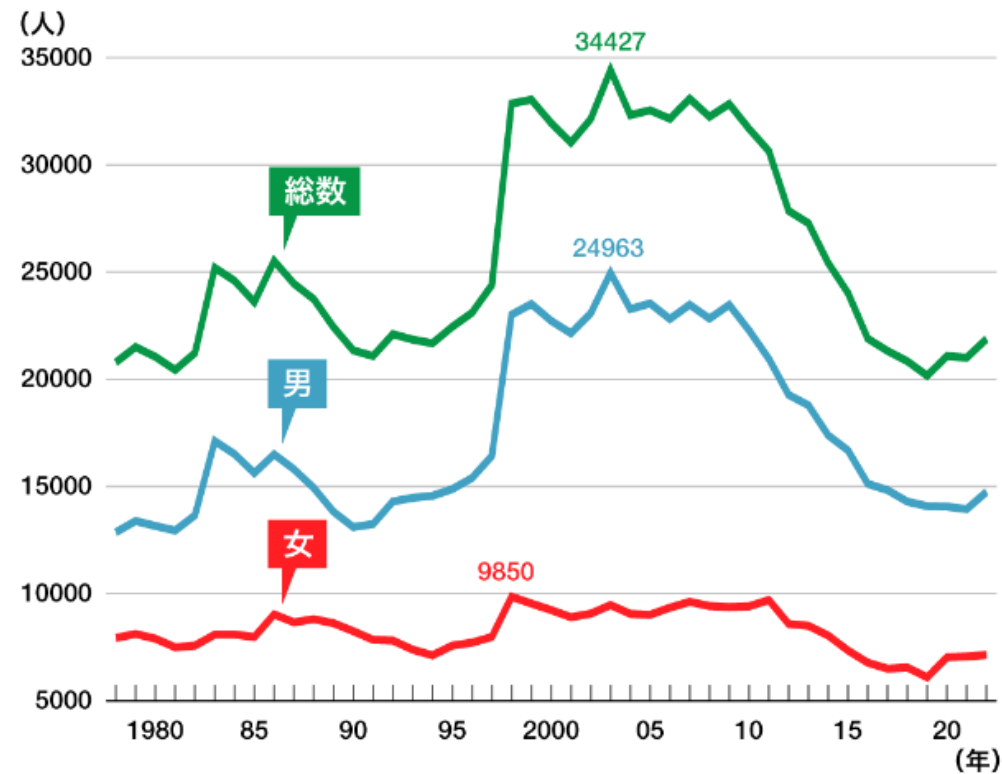
若者はなぜ死に急ぐのか —自殺と犯罪への衝動

むかわ町国民健康保険穂別診療所副所長
北洋大学客員教授

香山リカ

増加に転じている日本の自殺者

自殺者数の推移



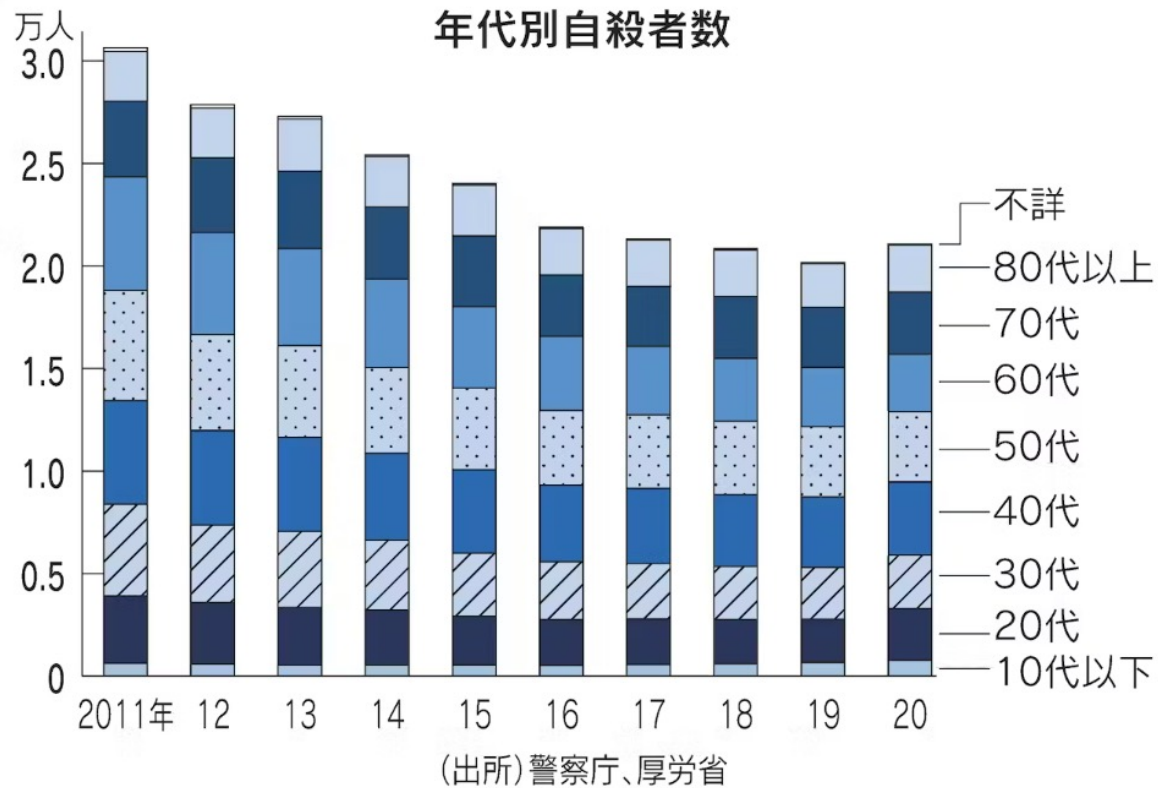
警察庁などの公表に基づき編集部作成

nippon.com

男性は前年比807人増の1万4746人で13年ぶりに増加。一方、女性は同67人増の7135人と3年連続の増加。年代別で50代が前年比475人増の4093人とも最も多く、40代3665人、70代2994人が続いた。

日本は“自殺大国”

日経新聞より



朝日新聞より

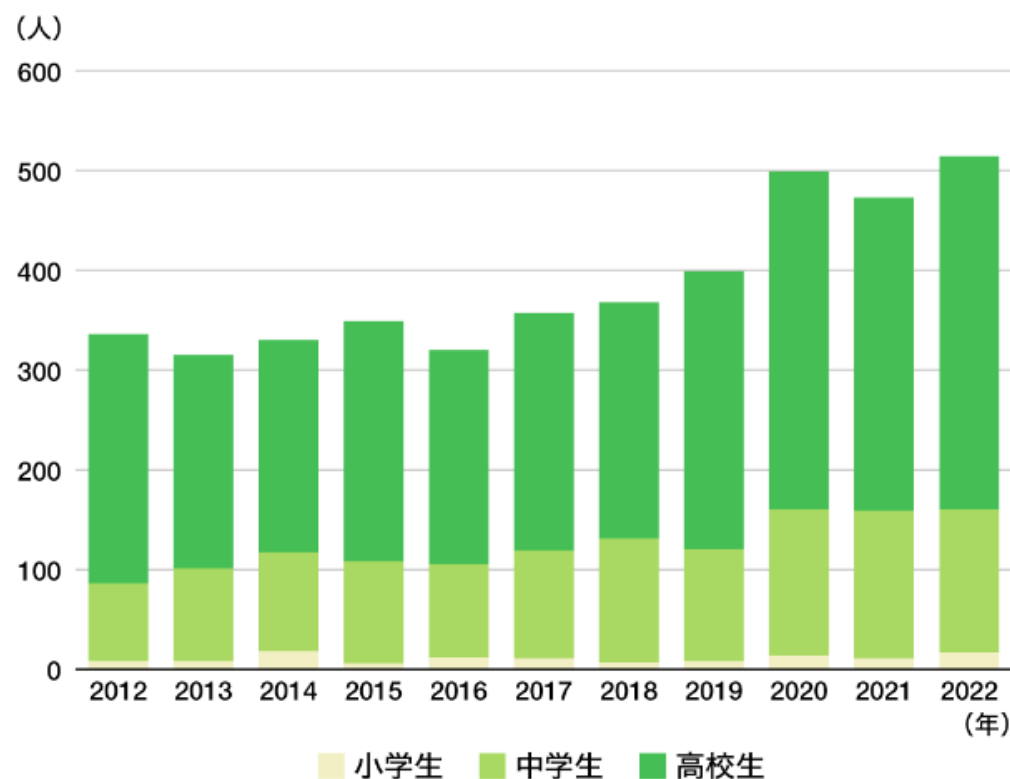


主要7カ国 (G7) で日本の自殺死亡率は最も高い

とくに増えている児童・生徒の自殺

小中高生の自殺者数は514人で1980年の統計開始以降で初めて500人を超えた。長期化するコロナ禍で、友人や先生とのコミュニケーションも十分に取ることができず、悩みを抱える子どもが増えていたことも一因とみられる。

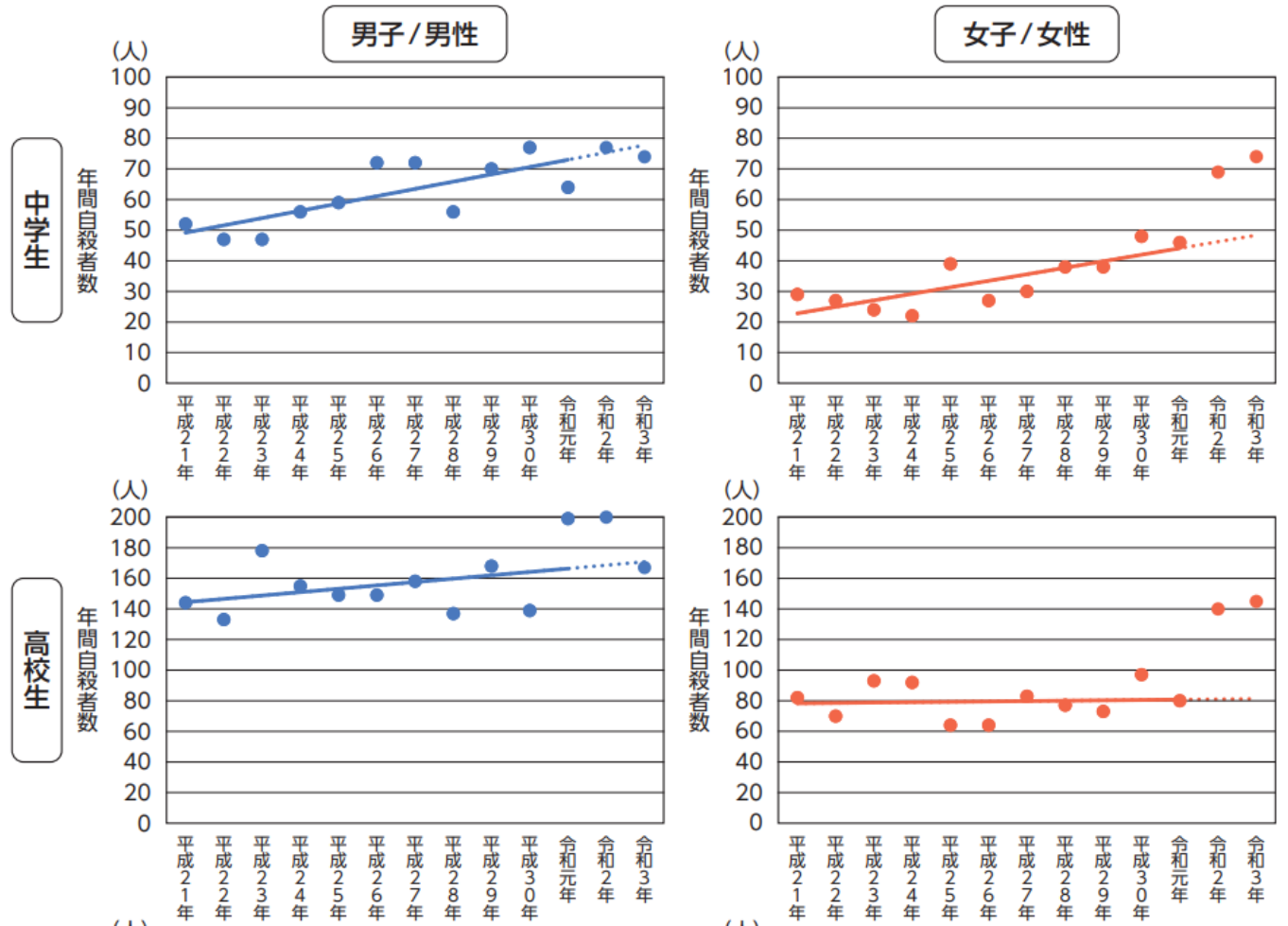
小中高生の自殺者数の推移



22年版自殺対策白書より

- 自殺者数の動向について、新型コロナウイルス流行前の15年から19年までの5年間平均と21年を比較して分析。男女とも20代以下で増えていた。コロナ禍で若年層の自殺増が目立つ。
- 流行前5年間平均との比較では、10代以下が29.1%、20代が16.7%増えていた。30代以上はいずれも減っていた。

感染拡大以前の変化に着目した、学校の種別、男女別にみた自殺者数の推移



原因は「コロナ」だけなのだろうか？

スマホがもたらす変化について考えてみる
…コミュニケーションの個別化、直接化、身体化、



昭和の人なら知っている「スマホのない時代の待ち合わせ」



スマホがない時代の男女の連絡方法



「mamastaセレクト」より

スマホの出現で状況は激変

- 待ち合わせは個人への連絡で簡単、正確に
- 友人や恋人への連絡は最初からダイレクト
- 寝ながら世界の人や情報とつながることができる



しかし一方で...

いつでも連絡がつく ⇨ 逃げられない

ごまかせない

プライバシーがない、ひとりに成れない

スマホと身体が一体化



ネットで「死にたい」と打ち明け、知らない人を頼ってしまう若者たち



すさまじい「ネットいじめ」
なぜ他者の人権を傷つけるのか？

小6自殺「いじめは家までついてくる」配られたタブレット端末で何が

🔒 有料会員記事

前川浩之、武田啓亮 伊藤和行 阿部朋美、三島あずさ、編集委員・宮坂麻子
2021年9月16日 7時00分

🔗 シェア

🐦 ツイート

🔖 ブックマーク

✂️ スクラップ

✉️ メール

🖨️ 印刷

[list](#)

9



記者会見する女子児童の母親（左）と父親
=2021年9月13日午後2時14分、東京都千代田区の文部科学省、前川浩之撮影



東京都 町田市 で昨年11月、小学6年の女子児童（当時12）が同級生からのいじめを訴える遺書を残して自殺した。両親は、学校で配られたタブレット端末を使って悪口が書き込まれたとしており、文部科学省は事実確認に乗り出した。何が起きていたのか。今年度から全国の小中学校で「1人1台」配られた端末の利用や規制の実態は、どうなっているのか。

心理的防衛機制 (defence mechanism)

- 自ら受け入れがたい状況、または潜在的な危険な状況に晒された時に、それによる不安を軽減しようとする無意識的な心理的メカニズム
- 例…投影 (Projection) —自分の内面にある受け入れがたい感情や欲動を、自分のものとして認めず、他者に映し出すこと。さらにそれを攻撃することで、より自分の内面には目を向けずにすむ。非常に未熟な防衛機制。“攻撃は最大の防御なり”の誤った使い方

“向きあいたくない自分”の内面とは…

- 友だちも恋人もできないのでは？
- 進学、就職できないのでは？就職してもすぐにクビになるか会社がつぶれるかしてしまうのでは？
- イキイキと輝いて生きられないのでは？
- 若くして成功している人たちに比べたら、取るに足らない人生では？
- 自分なんかいなくても誰も困らないのでは？
- 生きている意味などないのでは…？

自分を他者と比べてランク付けさせられる ネット社会ー比べる相手は無数



『わたしのネット』「自分に合うSNSは？SNS女子の特徴とタイプ別おすすめ診断」
<https://flets.hikakunet.jp/news/31300.html>

最大の問題…

「新自由主義」の名のもとに、機会の不平等が是正されず、すべては自由競争の結果の自己責任だとされる社会になっていること

親ガチャ、反出生主義…若者たちは「人生のネタバレ」に絶望している

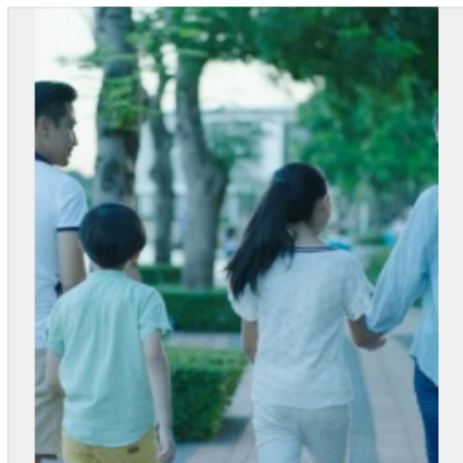
9/19(日) 10:02 配信 992  

 現代ビジネス

「親ガチャ」

——という、見るからに不穏なワードが流行している。

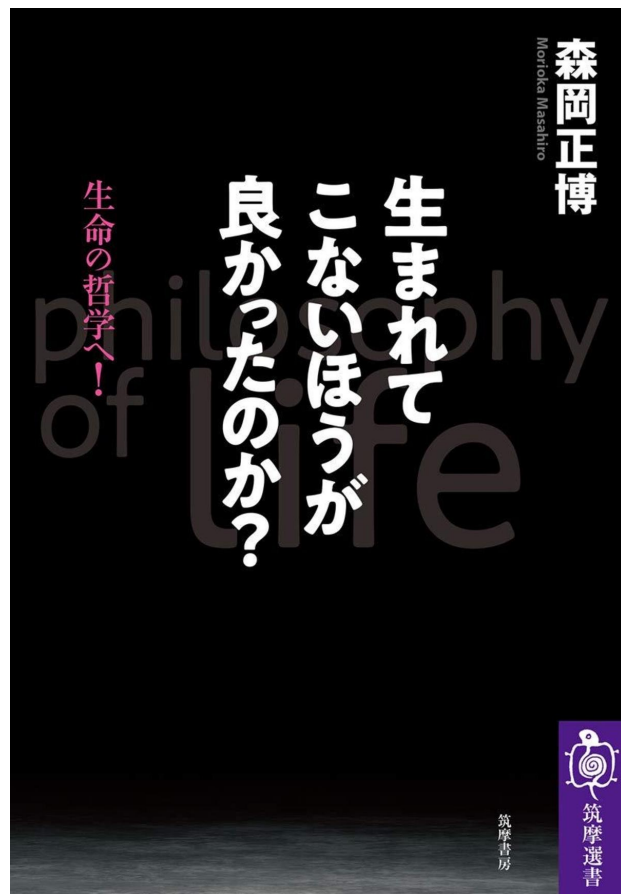
「親ガチャ」とはようするに、自分の両親や生まれた家庭環境は選べない、いうなれば完全な運任せであることを、ソーシャルゲームの「ガチャ(=クジ引き)」になぞらえたネットスラングである。



【写真】「図々しすぎるママ友」の子を幼稚園に迎えに行く Photo by iStock

く…36歳女性の深刻な苦悩

〈2021年9月7日、「親ガチャ」という言葉を取り上げた現代ビジネスの記事『格差拡大、貧困増大…それでも「若者の生活満足度」が高いこれだけの理由』が話題を呼んだ。



- <https://news.yahoo.co.jp/articles/a571cc2168cd212c3412287141145f240ce02b02?page=1>

いまの社会の限界に目を向ける必要がある

- 自助努力、自己防衛には限界がある
- 「タイパ」重視社会には限界がある
- とくにネット社会では子どもや若者の「よるべなさ」が無限大になっており、「自分を守るために自分を攻撃する」「自分を守るために他者を攻撃する」となっていることに気づくべき

